

第2回各務原市本庁舎耐震化基本構想策定委員会 議事概要

日 時 平成26年8月22日（金） 9時30分～11時30分
場 所 各務原市役所本庁舎 4階大会議室（東）
出席委員 杉戸真太委員長、土井康生委員、柳原幸一委員、藤吉里美委員
小島秀俊委員、山本直委員、森勇委員、花田澄子委員、三浦真由美委員、
五島伸治委員、広瀬正輝委員
欠席委員 福島茂副委員長
傍 聴 人 1名

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 資料説明
4. 協議事項
 - （1）庁舎に必要な耐震性能の確認
 - （2）本庁舎の耐震性能の確認と安全性の課題の確認
 - （3）本庁舎耐震化整備方法の確認
 - （4）本庁舎耐震化整備方針の検討
5. その他
 - ・先進地視察について

議事録（要旨）

議題 （1）庁舎に必要な耐震性能の確認

事務局説明
・概要版の検討資料を用いて、庁舎に必要な耐震性能を説明した。
主な意見及び質疑応答
（委 員）（I s 値について追加補足資料を配布し、I s 値は、建物が持っている地震に対する強さを示している。建物は、強度と粘りの両者でもっていることの説明をした。）
（委員長）柱の太さが2倍になるからI s 値が2倍になる訳ではない。0.6が0.9になるということは面積が1.5倍になるということで、必ずしも最大の強度が1.5倍ではないということ。庁舎に必要な耐震性能を確認することができた。
（委 員）本庁舎に求められる耐震性能ということで、現状が0.28ということで、0.9にしなければいけないということとはご理解いただけた。

議題 (2) 本庁舎の耐震性能の確認と安全性の課題の確認

事務局説明
・概要版の検討資料を用いて、本庁舎の耐震性能の確認と安全性の課題を説明した。
主な意見及び質疑応答
(委員) 当時のF値はいくらだったか。 (事務局) F値は1.0です。 (委員) その当時は大体1.0です。柱をいくら補強してもなかなか難しいです。 (委員) 神戸市役所の場合、1F～5Fまでの鉄骨鉄筋コンクリートと6Fより上 が鉄筋コンクリートの柱だったので、6Fの柱がせん断破壊し、6Fが潰 れた。本庁舎の耐震診断の結果は信頼できるものか。 (事務局) 耐震診断結果は、第三者機関による審査を受けているものである。 (委員) この地域で大規模地震が発生する可能性は、どの程度なのか。 (委員長) 地震の発生の可能性について、少なくとも室町時代から5回の大きな地震 が発生しているので、今後30年で起きると予想される。 (委員) 想定される震源に近い静岡と比べ、各務原市において想定される震度が低 ければ、目標とするI_s値は、0.9ではなく0.75等でも良いのでは ないか。整備方法が色々あるが、補強すると相当な強化になるのか。 (事務局) 地震の地域性を表す地域別地震係数というものがあり、岐阜県は1.0で あり、係数を考慮している。I_s値0.9とすることで、地震後も補修な しでそのまま使える想定をしている。 (委員長) 委員が言われたのは、静岡と比べて、地震の想定震度や発生頻度が小さい ため、目標I_s値は低くなるのではないかということだと思うが、これら を正確に把握するのは難しい。静岡県は海溝型の断層による地震、岐阜県 は内陸の活断層による地震がそれぞれ考えられるため、目標を下げるべき ではない。

議題 (3) 本庁舎耐震化整備方法の確認

事務局説明
・概要版の検討資料を用いて、本庁舎耐震化整備方法を説明した。
主な意見及び質疑応答
(委員) 耐震補強・免震補強による補強の目指すところは、建物の寿命は別として、 地震に対して、人命は救われるけれども、庁舎の機能は使えなくなるとい うものなのか。また、各補強の事業費とライフサイクルコストの金額が合 わないことについて、補足してもらいたい。 (事務局) 補強は、0.9以上あればそのまま使えるであろうという想定でいる。免 震を利用すれば、直下型の地震には効果が薄いということはあるが、横の 揺れの地震であれば、その揺れを弱めることで、大きな被害はないといわ れている。ライフサイクルコストについては、建物の寿命を65年として

考え、20年後には建替えを行う必要があることから累積コストが大きく上がっている。
(委員) 補強しても20年後には建替えが必要になるか。
(事務局) コンクリートの寿命を考慮すると20年後には建替えが必要になる。なお、建替えの場合は、免震構造とすることを想定している。
(委員) 整備方法の比較について、5項目の○と×と△と◎は何をベースにして書かれたのか。
(事務局) 基本的性能基準というものがあり、安全性、機能性、経済性といったもの、それぞれ小項目もございしますが、それぞれの程度の課題が整理できるかというのをこの中で数値として表現した。
(委員) 整備方法の比較について、◎○△の評価を点数化して考えるべきではないか。◎4点○3点△1点×0点として、点数化をしてみたところ、1点あたりの事業費は、建替えが一番有利という結果だった。
(事務局) 建替えの金額については建設費用のみである。どういった方法が一番合理的で、我々の子孫の年代にどのように負担を残さない方法なのかを皆様方とご検討をしたい。
(委員長) 委員の指摘は非常に重要で、最低でも10点が必要という制約条件を設けるなどすると分かりやすくなるのではないか。

議題 (4) 本庁舎耐震化整備方針の検討

事務局説明
・概要版の検討資料を用いて、本庁舎耐震化整備方針を説明した。
主な意見及び質疑応答
(委員) ブレース補強について、床下の施工ができるかどうか。
(事務局) 重要度係数に合わせた計画をしている。耐震診断を行った上での補強計画をしている。
(委員) 内部で工事が必要になるので、実務はストップせざるを得ない。文部科学省が、以前小中学校の耐震化を進めていた際、建替えの目安をI s値0.3以下としていた。
(事務局) 居ながら改修は不可能である。
(委員) 耐震補強及び免震補強により庁舎機能は維持できるか。ブレースが避難の支障にならないか。
(事務局) そのまま機能できると考えているが、必ず大丈夫かどうかといった判断は難しい。避難上の課題は考えられる。
(委員) 建替えの場合、面積は50～60年後を見越しているのか。どういうビジョンかを示す必要がある。また、工事費については、仮庁舎や引越し費用など積み上げた正しいものを示すこと。
(委員) 財政の観点からの検討が重要。市民に情報開示するなど、最善の方向性を出していけないといけない。

- (事務局) ある程度方向性が出れば、どういう検討が必要かどうか検討する。金額は、大きく乖離するようなものではない。
- (委員長) 居ながら改修は難しいとのことだが、岐阜市では建築資材にアスベストが使用されているという問題があり、居ながら改修は難しいという判断がされたが、各務原市ではアスベストの使用の問題はないか。
- (事務局) アスベスト除去は既に行っているため問題ないが、庁舎内にブレースが入ることや設備を含めた改修を行う部分では居ながら改修は困難と考える。
- (委員長) 比較表の中に不便さなどについても整理した方が良いのではないか。
- (委員) 建替えの方が良く、場所もここが良いと思う。市民利用の視点から本庁舎の現状は、不便に感じている。各務原市には長く住んでいる市民が多く、市役所は那加地区にあるという認識がある。
- (委員) 機能性、ユニバーサルデザイン、環境等、今後必要になる。建替えでなければ、そのようなスペースが生まれないと思う。
- (委員長) 本日議論された意見をふまえて整理してもらいたい。

6. その他

先進事例の視察

- (事務局) 近隣市庁舎の耐震補強事例、新築事例の視察を考えている。次回の視察の際に、資料を用意する。